

吉塚 3

—吉塚遺跡群第3次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第553集

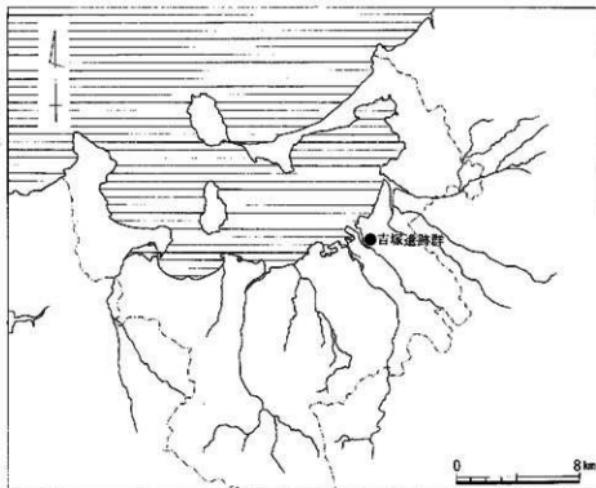
1998

福岡市教育委員会

よし づか
吉 塚 3

よしづか
—吉塚遺跡群第3次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第553集



遺跡略号 YSZ-3
遺跡調査番号 9615

1998

福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化の門戸として栄えた福岡市内、特に都心部の遺跡では近年の大小の再開発に伴い、現在まで數次にわたって記録保存のための緊急調査を行ってきました。失われていった遺跡とひきかえに新たな知見が得られています。

本書は農林水産省福岡食糧事務所分庁舎建設に伴って実施された吉塚遺跡群第3次調査を報告するものです。同じ博多湾岸沿いの砂丘に立地する国際貿易都市博多と近接する当遺跡との関連を示す資料の出土等、大変興味深い成果を収めています。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた農林水産省福岡食糧事務所の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成10年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町田英俊

例　　言

1. 本書は農林水産省福岡食糧事務所分庁舎建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、平成8（1996）年度に発掘調査を実施した福岡市博多区堅粕4丁目所在の吉塚遺跡群第3次調査の報告である。
2. 本書に掲載した造構と遺物の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎の他、遺物の一部を林田憲三があたり、撮影は佐藤が行った。
3. 製図は造構を藤村住公恵、遺物を佐藤が行った。
4. 本書の執筆・編集は佐藤が行った。
5. 本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調査番号	9615		遺跡略号	YSZ-3	
調査地地籍	福岡市博多区堅粕4丁目406-1, 406-1, 326		分布地図番号	博多駅36	
開発面積	1,115m ²	対象面積	364m ²	調査面積	310m ²
調査期間	1996（平成8）年7月5日～8月22日				

本文目次

I.はじめに	
1 調査にいたる経過	1
2 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	1
III. 発掘調査の概要	2
IV. 遺構と遺物	4
1 検出遺構	4
2 出土遺物	8

挿図目次

第1図 古墳遺跡群と周辺の遺跡(1/25,000)	3
第2図 古墳遺跡群調査地区位置図(1/3,000)	3
第3図 古墳遺跡群第3次調査遺構配置図(1/100)	5
第4図 検出遺構実測図	6
第5図 出土遺物実測図	7

図 版 目 次

- 図版 1 (1) 古塚遺跡群第3次調査全景（南から）
(2) SD01溝（南から）
- 図版 2 (1) SE04・03井戸（東から）
(2) SE08井戸（東から）
- 図版 3 (1) SE06井戸（北から）
(2) SE12井戸（南から）
- 図版 4 (1) SK11土壙（南から）
(2) SD01溝土層（南から）
- 図版 5 (1) SD05溝土層（南から）
(2) 古塚遺跡群周辺城空中写真
- 図版 6 出土遺物

I. はじめに

1. 調査に至る経過

1996(平成8)年1月24日、農林水産省福岡食糧事務所長から本市に対して博多区堅粕4丁目406-1, 406-2, 326における福岡食糧事務所分庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財の事前審査についての依頼された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの古墳遺跡群の南西に位置し、第2次調査区の西に接する平地である。福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、これを受けて1996(平成8)年2月7日に試掘調査を実施した。調査の結果、客土下に暗灰色粘質砂、暗茶褐色砂(厚さ10cmの遺物包含層)、地山の黄褐色砂が確認され、黄褐色砂上面で遺構を検出した。福岡食糧事務所と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積1,115m²の内工事で破壊を受ける建物部分364m²を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。福岡食糧事務所と福岡市との間に発掘調査および資料整理に関する受託契約を締結し、調査は同年7月4日から8月21日まで行われた。

2. 調査の組織

調査委託 農林水産省福岡食糧事務所

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝

第2係長 山口讓治

調査庶務 小森 彰

調査担当 試掘調査 清石哲也 榎本義嗣

発掘調査 佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者 尾花憲吾・真田弘二・柴田博・中村米重・森木芳樹・伊藤美伸・

尾崎真佐子・河津信子・桑原美津子・古賀美恵子・指山歌子・指山浩子・

瀬戸口周子・高橋茂子・為房紋子・播磨博子・福田友子・藤野洋子・藤原直子・

水野由美子・山口慶子・吉住シヅエ・萬スミヨ・相川和子・田中ヤス子・

藤野邦子・藤村住公恵

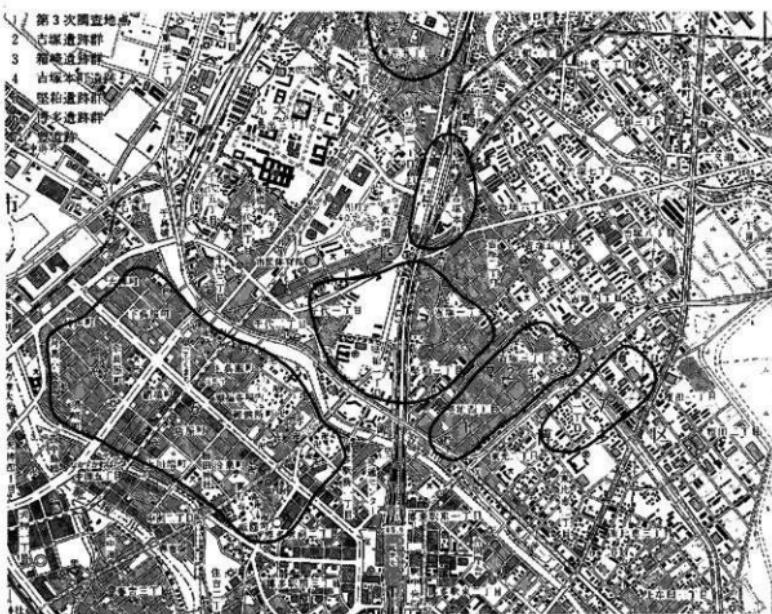
その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について農林水産省福岡食糧事務所をはじめとする皆様には多くご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

II. 遺跡の位置と環境

吉塚遺跡群は博多湾岸沿いに連なる古砂丘、御笠川東岸下流域に位置する弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。その範囲は南北約900m、東西300m、標高は4m前後を測る。これまでに6次にわたる調査が行われている。湾岸沿いの砂丘上には大小の遺跡が濃密に分布している。吉塚遺跡群の西側の砂丘上には博多遺跡群が位置する。弥生時代中期から集落が営まれ、中世前半からは対外交渉の拠点としてあまりにも有名な都市遺跡である。中世後半、蒙古襲来以降には鎮西探題が設置され、大宰府に代わる九州の中心となる。その後幾多の戦乱、復興をへて、近世の初めに長崎に国際貿易都市の座を明け渡すまで繁栄を誇っていた。地下鉄建設に伴う発掘調査を嚆矢として、これまでに100次を越える緊急調査が行われ、質、量ともに膨大な資料が蓄積されている。吉塚遺跡群の北西には堅粕遺跡群が位置する。これまで5次にわたって調査が行われ、古墳時代前期の方形周溝墓や後期の土壙墓、古代の集落が検出されている。反対側の吉塚遺跡群南東は後背湿地となっている。堅粕遺跡群の北側は吉塚本町遺跡が位置する。4次の調査が行われ、弥生時代後期から古代にかけての集落が検出されている。さらに北側には箱崎遺跡群が位置する。これまで13次の調査が行われ、古墳時代前期から中世にかけての集落が検出されている。文献の上では博多遺跡群と並ぶ対外交渉の拠点とされているが、調査件数・面積が博多に比べ少ないこともあって考古学上の成果は今後に期するところが大きい。

III. 発掘調査の概要

吉塚遺跡群第3次調査区は吉塚遺跡群の南西部分に位置し、標高9m前後を測る。第2次調査区の西側に隣接する。現況は調査対象地の北側が駐車場（それ以前は畑）、南側は家屋解体後さら地となっていた。調査はバックホーによる表土剥ぎから開始し、排土は中耕地内に調査対象外で処理した。調査区の北側はアスファルト、パラスの直下に遺物包含層の暗褐色砂が残り、現地表下70cmで地山の黄褐色砂と続く。遺構の一部は遺物包含層上面で確認されたが、包含層の厚さが約10cmと薄く地山の黄褐色砂上面での調査に限った。一方、南側は削平が著しく、客土直下、現地表下75~90cmで黄褐色砂を確認した。検出した遺構は8世紀、12世紀前半、15世紀前半の溝各1条、9世紀の井戸1基、12世紀前後の井戸4基、弥生時代中期～後期初頭の土壙1基、弥生時代後期～9世紀頃の柱穴等である。発掘区の北側は厚いところで約30cmの包含層が残り、遺構も良好な状態で検出されたのに対し、南側は大きく擾乱・削平を受け、北側の地山面（明黄褐色砂）より下のレベルまで客土（ガラ）が及び、わずかに溝、井戸、土壙の底面が検出されただけである。12世紀前半の溝S D05からは、完形もしくはそれに近い土師器小皿・杯、瓦器碗、陶器長瓶が出土した。12世紀前後の井戸S E08上面の包含層（S E08の埋土の可能性あり）からは、磁州窯系の白釉黒花陶器片が出土している。他に包含層中からは、滑石製櫛（分鏡）が出土している。



第1図 吉塚遺跡群と周辺の遺跡 (1/25,000)



第2図 吉塚遺跡群調査地区位置図 (1/3,000)

IV. 遺構と遺物

1. 検出遺構

井戸 遺構の時期は、S E 06が8世紀、他は12世紀前半前後とみられる。

S E 03（第4図、図版2） 調査区中央のやや北側で検出した。掘り方は上面径1.3mの略円形を呈し、深さ0.8m、底面の標高1.9mを測る。基底部中央に径42cm、深さ7cmの桶側の残欠とみられる木質がわずかに残る。

S E 04（第4図、図版2） 調査区中央のやや北側、S E 03の南側で検出した。掘り方は上面径1.2~1.4mの略円形を呈し、深さ0.8m、底面の標高2.0mを測る。基底部北側に径48cm、深さ15cmの桶側の残欠とみられる木質がわずかに残る。

S E 06（第4図、図版3） 調査区北東端で検出した。掘り方は上面径1.2~1.4mの略円形を呈し、深さ0.7m、底面の標高2.3mを測る。基底部中央に径70cm、深さ5cmの井戸枠の痕跡がみられる。

S E 08（第4図、図版2） 調査区北西端で検出した。掘り方は上面径1.9~2.1mの略円形を呈し、深さ2.3m、底面の標高2.0mを測る。基底部中央に径58cm、深さ8cmの井戸枠の痕跡がわずかにみられる。

S E 12（第3図、図版3） 調査区南側は擾乱・削平が著しく、北側の地山面（明黄褐色砂）より下のレベルまで客土（ガラ）が及び、わずかに遺構の底面が検出されただけである。S E 12は基底部のみが検出された。基底部は径70cmの略円形を呈し、わずか深さ20cmが残存し、底面の標高2.0mを測る。基底部中央に径35cm、深さ10cmの井戸枠の痕跡がわずかにみられる。

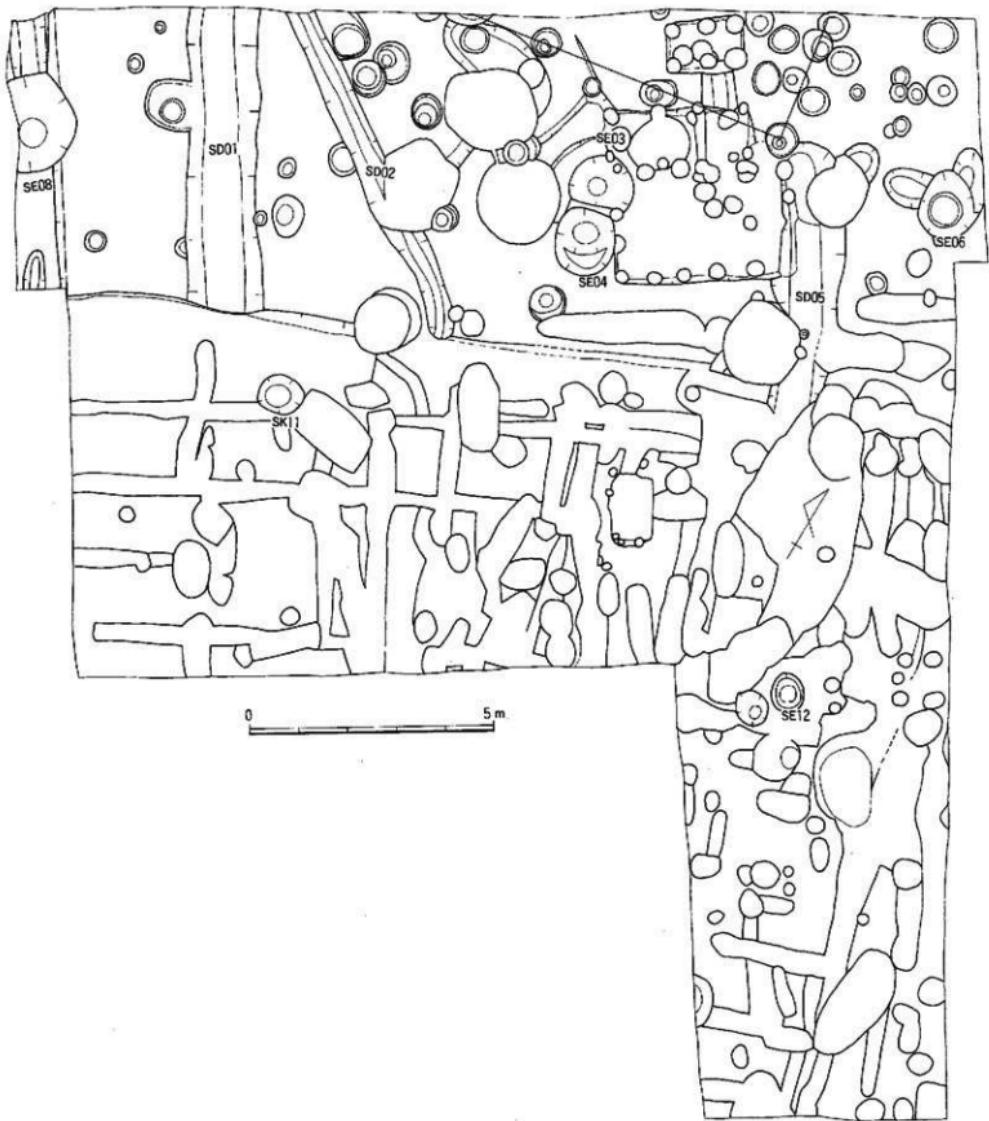
土壙 S K 11（第4図、図版4） 調査区南側のやや西側で検出された。平面形は略円形を呈し、径0.8m、わずかに深さ20cmが残存する。弥生時代中期～後期初頭の斐形土器片が発見されていた。

溝

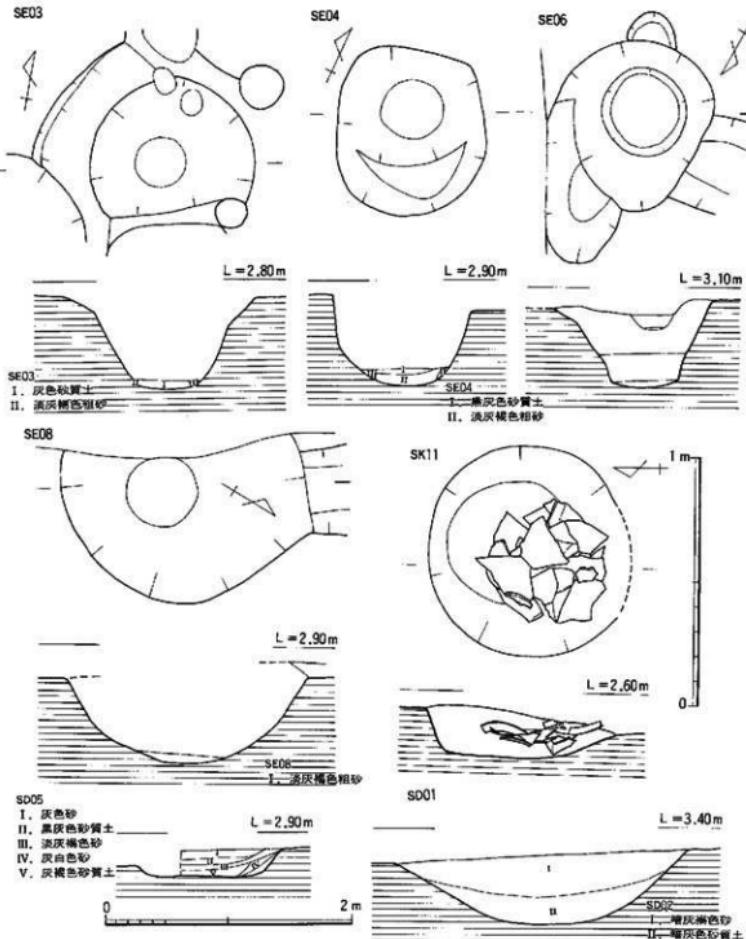
S D 01（第4図、図版1） 調査区の西側で検出した主軸方位をN-30°-Wにとる溝である。幅1.4~1.6m、深さは15~20cmを測る。削平が及んでいない調査区北側で延長6.2m検出した。底面は北西側から南東側へ低くなっている。溝の断面形は半円形を呈する。

S D 02（第3図、図版1） 調査区の北側中央で検出した主軸方位をN-55°-Wにとる溝である。幅0.5~0.6m、深さは15~35cmを測る。調査区北側で延長7.4m検出した。底面はほぼ水平である。溝の断面形は逆台形を呈する。

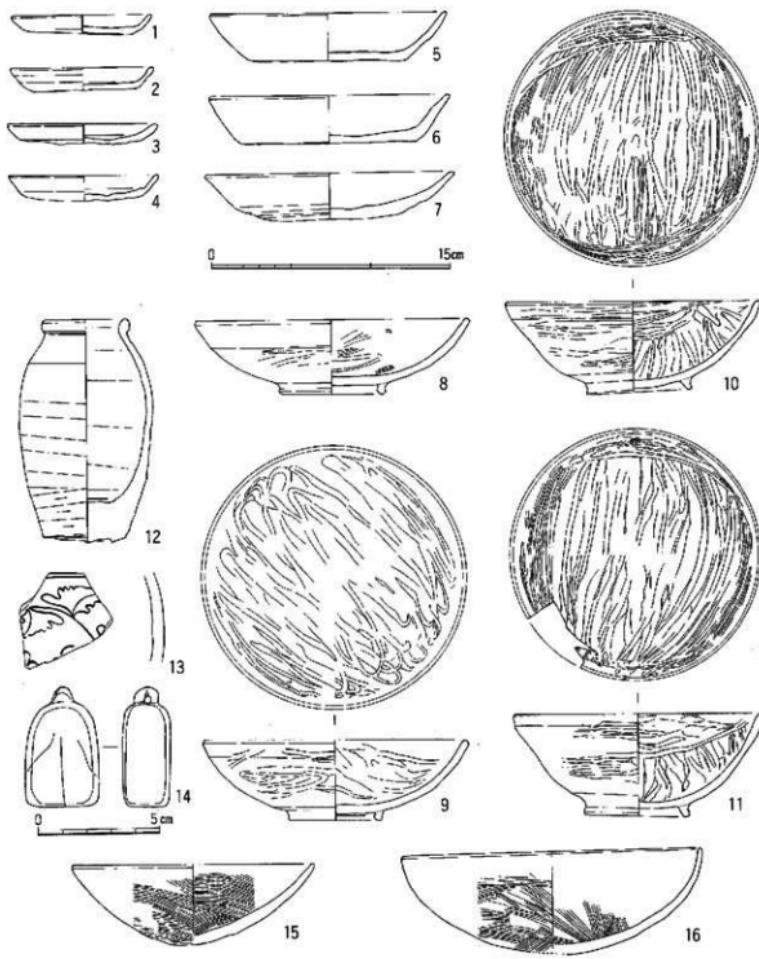
S D 05（第4図、図版1） 調査区の東側で検出した主軸方位をN-30°-Wにとる溝である。幅1.1~1.3m、深さは25~50cmを測る。調査区北側で延長5.5m検出した。底面は北西側から南東側へ低くなっている。溝の断面形は逆台形を呈する。完形もしくは略完形の土師器小皿・杯、瓦器碗、陶器長瓶が出土した。



第3図 吉塚遺跡群第3次調査構造配置図 (1/100)



第4図 検出造構実測図



第5図 出土遺物実測図

2. 出土遺物

S D05出土土器（第5図、図版6）

土器類

小皿（1～4） 1～3の底部は糸切離し、4の底部はヘラ切離しにより、体部はいずれも横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。1～3の口径8.8～9.4cm、器高1.2～1.5cm、底径6.4～7.5cm、4の口径9.3cm、器高1.6cm、底径7.1cmを測る。

杯（5・6） 底部は糸切離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径14.8・15.0cm、器高3.0cm、底径9.6・10.8cmを測る。

丸底杯（7） 内面を磨いて器面を平滑にする。外底にはヘラ切り離し痕、板状圧痕がみられる。口径15.6cm、器高3.1cmを測る。

瓦器楕（8～11） 8・9は浅めの楕で、体部は丸みをもつ。低くやや外側に聞く貼り付け高台が付く。体部外面は横方向のヘラ磨き、内面は一方向にヘラ磨きしている。胎土には砂粒を少量含み、色調は暗青灰色～青黒色を呈する。口径17.0・16.6cm、器高4.8cm・5.0cm、高台径6.7・5.8cmを測る。10・11はやや深めで、直線的に外上方にのびる体部は口縁下で屈曲し、口縁部はやや肥厚する。端部をやや細くおさめ、外側に聞く貼り付け高台が付く。内面は幾重にも一方向にヘラ磨きし、口縁下の折り返しが集まる部位はさらに横方向にヘラ磨きしている。細かい砂粒を少量含む精良な胎土で、色調は10が明紫灰色～暗紫灰色、11は青灰色～暗青灰色を呈する。口径16.0・15.7cm、器高5.7cm・6.4cm、高台径7.1・6.6cmを測る。

陶器長瓶（12） 断面円形の短い高台が付く。底部は厚く、外底部の内側を浅く抉る。体部は外面下位を回転ヘラ削りする他は、回転横ナデを施す。オリーブ色の胎が全面にかけられている。

包含層出土遺物（第5図、図版6）

白磁黒花（13） 井戸S E 08上面の包含層から出土した。釉下には白化粧土が施され、花卉文の一部とみられる葉茎が描かれている。

滑石製櫛（14） 丁寧に研磨成形されている釣鐘形の分銅である。高さ5.0cm、幅2.0cm、最大幅3.0cm、重さ65gを測る。針状の工具で「小」字形の記号を記す。

Pit31 出土土器（第5図、図版6）

弥生土器 鉢（15・16） 口縁部は横ナデ、体部は内外面ともに刷毛目を施す。

図 版



(1) 吉塚遺跡群第3次調査全景（南から）



(2) SD01溝（南から）



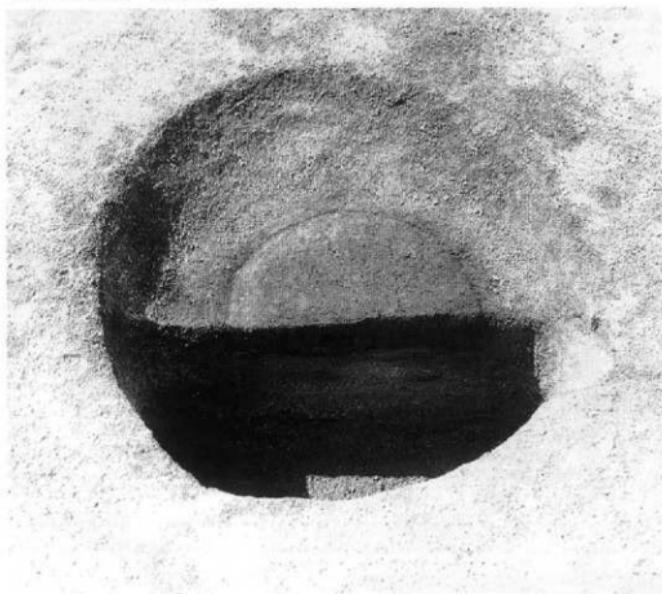
(1) SE04・03井戸（東から）



(2) SE08井戸（東から）



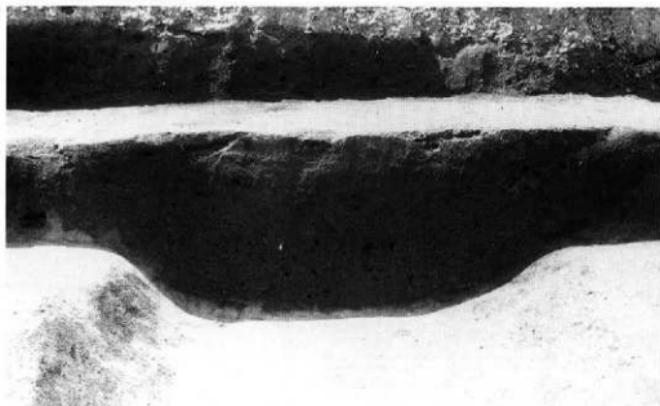
(1) SE06井戸（北から）



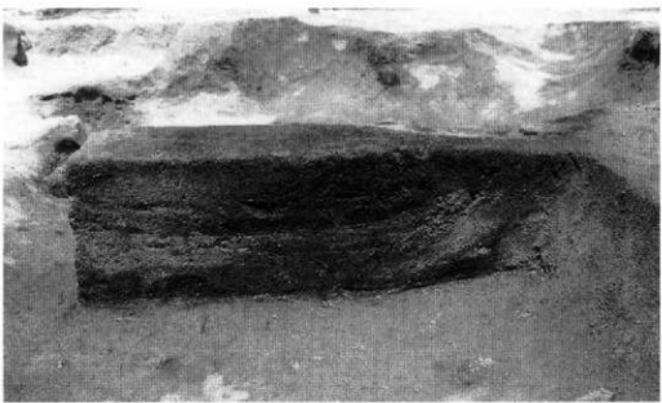
(2) SE12井戸（南から）



(1) SK11土壤（南から）



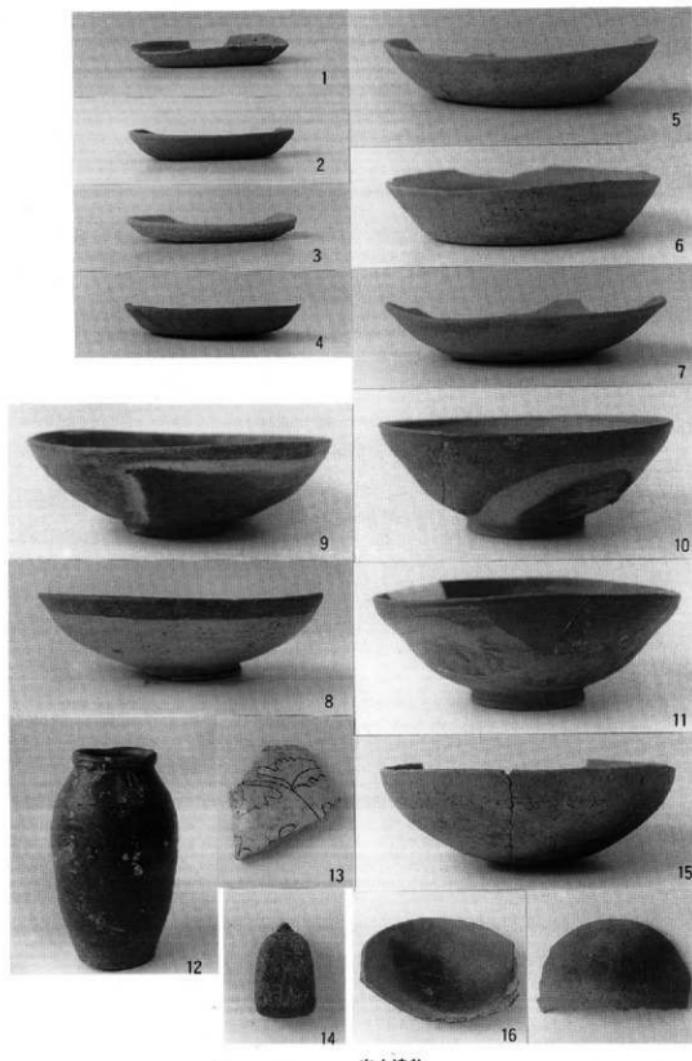
(2) SE01溝土層（南から）



(1) SD05溝土層（南から）



(2) 吉塚遺跡群周辺域空中写真



出土遺物

吉塚 3

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第553集

1998年3月31日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区大神1-8-1

印刷 株式会社玉川印刷

福岡市中央区清川3-18-11

